研究背景

現代社会の大きな問題になっているのが、高齢者に対する虐待です。虐待と聞くと家庭内での出来事と考えられがちですが、それたけではありません。厚生労働省のデータによると、家族からの虐待はなんと年間１万7,000件以上もの事例があり、介護施設や居宅サービスの従事者によるものは年間約500件が報告されています。

総人口に占める高齢者人口の割合の推移をみると、1950年（4.9％）以降一貫して上昇が続いており、1985年に10％、2005年に20％を超え、2018年は28.1％となりました。

　国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、この割合は今後も上昇を続け、第２次ベビーブーム期（1971年～1974年）に生まれた世代が65歳以上となる2040年には、35.3％になると見込まれています。

研究目的

このことから、現在問題となっている高齢者虐待は今後も増える可能性があり解決すべき課題だと考えます。

本研究では介護施設などに設置したカメラから高齢者の表情から感情を読み取り、高齢者虐待を防ぐことを目的とします。

これにより介護施設での人件費削減、介護従事者の人手不足を解消。高齢者の家族の安心と信頼を得ることに繋がると考えます。

【データで解説】高齢者虐待が起こる理由と対策　使える！！

https://www.minnanokaigo.com/guide/care-trouble/elder-abuse/

障害者虐待防止法が施行されました

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\_kaigo/shougaishahukushi/gyakutaiboushi/index.html

総務省　高齢者の人口

https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1131.html